

平成30年度 第2回能代市中心市街地活性化推進協議会

会 議 録

日 時：平成30年10月25日（木）

午後6時30分～

場 所：能代市役所大会議室（旧議事堂）

協議事項

- ・資料に基づき阿部副会長（全体戦略分科会副座長）及び事務局から説明し、協議及び質疑を行った。

（1）全体戦略分科会での協議経過の報告について（資料1、資料2）

- ・第1回から第3回までの全体戦略分科会の概要を、阿部副会長が説明。
- ・第1回では、中心市街地活性化についての意見交換を行い、第2回以降は意見をシートに書き出し、様々は取り組みや意見を「誰のため・何のため」を意識しながらビジョンのイメージについてまとめ、活性化のキーワードを抽出した。
- ・抽出されたキーワードは以下のとおり。
 - ◇長期的に考えていくべき目標
 - 【活性化の目的】 衰退への歯止めをかける
 - 【長期的な視点】 目に見えるまちの姿の変化
 - ◆取り組みの柱となる視点
 - 【商業の振興】 【回遊性の確保】 【公共交通の活用】 【まちの魅力向上】
- ・今後は、基本方針を整理し、新規の活性化策を検討していく。

（2）各種アンケート調査の結果について（資料3、資料4、資料5）

- ・市民意向調査、中心市街地商業者意向調査、中心市街地来街者意向調査について事務局より説明した。

（3）その他

- ・その他事項について事務局より説明。
- ・畠町のARスタンプラリー、市主催のワクワクスタンプラリーを事例として紹介した。
- ・事業検討シートについて、意見等ある場合は期日まで提出するようお願いした。
- ・11月に分科会、12月に協議会を開催する予定であることを説明した。

協議・質疑

委員：中心市街地に若い人が住みたくなるような施策が必要と思う。空き店舗や空家に対して、前向きな検討があれば、若い人に住んでもらえる。若い人が住めば、出店も増える可能性もあるだろうし、賑わいの創出にもつながる。

座長：長期的な街の変化からある商業の振興につながる意見である。

委員：観光的視点で考えると、能代はおそらく目的地というよりは通り道であり、通過点のなかでどうやって人を呼び込むか、そのなかで経済効果を生んでいくことが重要だなと感じている。金勇などの集客施設に加えて、買い物する場所や、観る場所が充実していくことが必要である。

委員：商店街、商店会単位では、各商店の店主たちが、それぞれで活動している。しかし、なかなか広がりを見せていかない中で、他の商店街や行政と協力しながら、商店街全体として良い方向に進んでいきたい。

委員：能代には井坂直幹記念館など、歴史的に貴重な場所が点在する。これらの魅力を再発見してもらう機会を創出することも大切なことだと考える。

委員：能代に来て遊ぶところがないとよく言われる。北高跡地に気軽に立ち寄れる複合施設があれば、少しは違ってくる。また市民プラザで各ボランティア団体がコーヒーサロンを行っている。こういった取り組みを継続して行っていくことが大切であり、こういった場所は大切である。

座長：どの地域でも、人が気軽に集まる共有のフリースペースが非常に重要視されている。そういったものが能代に欠けているように感じる。

委員：コミュニティバス、巡回バスは年々利用者数が増加している。行政と協力しながら利便性を高めていきたい。また、観光バスを運行していて、能代は通り道であると実感しているところ、ここに立ち寄ってもらって、お金を落としてもらうシステムが確立されればと思っている。

委員：能代駅にはバスケットリングがある。もちろんバスケットで有名であることを知っている方も多し、リングをみて初めて知る方もいる。天空の不夜城の模型をみて、来てみたいと思う方もいる。情報発信の大切さと、冬にお客を呼べる何かも必要と感じているところである。

委員：自戒を込めて思ったことをお話しさせてもらおう。アンケート結果を見ると、活性化とは買い物であると思う。例えば公共交通の利便性も買い物のための手段である。今の商店街は、古き良き時代の商いを求めている方が多いように感じる。その結果が空き店舗になっていたり、後継者を見つける努力がなかったりといったことにつながっている。昔は商店街がひとつのデパートのようであったが、今は違う、回遊しなくなったのは、ラインナップ的に負けているためと、営業努力の不足のためである。これから先を考えたときには、空き店舗等を活用した新規出店も重要であるし、今、頑張っている人たちの意識が変わり、活気を取り戻さないと、周りが何をやっても正直無駄だと思う。祭りであれだけ人が来ていても、お店へ行っているお客さんはあまりいないと思う。それが何であるかを考えて解決していかないと、交通等が便利になっても変わっていかない。理想と現実がちょっと乖離しているのではないかと思った。その辺から皆で考えていけたらと思う。

委員：後継者のいない商店が多い中、商店街は良い環境を求めて、ここで商売したいと思う方が新しく入ってくる場でありたいし、応援もしていきたい。新陳代謝をうまくやっていきたいが、商店街として背負っているものが多すぎて、なかなかバトンタッチできないのが現実である。商店街も地域のコミュニティの核として行政と協力しながら頑張っていきたい。